2022 年 3 月 1 日

第 127 号お知らせ版

ＮＰＯ法人　響き合いネットワーク東京 SP の会

NPO Resonate Network Tokyo SP

〇2 月 4 日(金)から 9 日(水)まで千葉の**東邦大学健康科学部 1 年生 68 名と医療面接を行いました。SP は 4 日間で 12 名参加しました。**

ベットに番号が付けられ SP はベットで学生さんを待つ。始まる前に担当の教官と打ち合わせ。教官からチェックを受ける学生

爪・髪・服装・健康状態等のチェックが入ります。SP との面談に緊張した顔でご挨拶です。足元から教官の視線が注がれます。

感想

神永教子

とても 1 年生とは思えない落ち着いた学生さん達でした。本人は緊張したと言ってましたが感じられませんでした。始まる前に学生さんの姿や健康状態に配慮する教官にわたくし自身初めての体験でした。持参したメモ帳に縛られて、言葉が詰まるとすぐに手帳のほうに神経が集中していたように感じましたが、学生さんのアイコンタクトも優しく、真剣に聴こうとする態度に感心しました。

〇7 日(月)と 8 日(火)は男性 SP 3 名と千葉の**東邦大学健康科学部 2 年生 3 名との医療面接をリモートで行われました。**

3 名の PS と教官との打ち合わせ。メイン会場にカメラの設定等が行われました。　　おいしいお弁当でした.

感想

村上　宗隆

2 月 7 日、午後からの実習の為に控室に入って、用意して頂いたお弁当を頂きながら、担当の先生の説明を聞いて、今回はいつもと違うと知りました。

2 日間、石井さん小林さんと私が SP として相手をするのは３人だけ、微熱の為病院実習に参加できなかった学生の補修実習をします、ということでした。今日は、回復期のリハビリテーション病院に入院中の我々に３人が

患者の状態を考えて、それぞれ、水分補給を促す、離床を心掛けて貰う、車椅子で病室を離れてリフレッシュして貰う、と云う看護目的を持ってやってきて面接をする場面をリモートで行い、その後部屋に来てフィードバック、というより、フリーなトークをして、患者の受け止め方やどんな事が心に届いたか、何故拒否反応が出たか、看護師としての目的やそれをどのように伝えたかったか、いつものＰＮＰも交えながら、先生も感想や意見を加えて下さって、話し合をしました。
私達 SP は、いつもは看護師の行為に関連して患者として感じた事、心の動きと感情の変化、そしてどう行動に現れたか、をフィードバックし、どうあって欲しいかという意見は言いませんね。
今回は、打ち合わせの時に先生から、個人的見解で構わないので、そういう話もして上げて下さいと云われた。つまり、その場面に合った教育的指導を必ずしも全て先生方が出来る訳ではない、気が付かない事も有りますから、という事でしたので、敢えてこうしてくれたら、というような事も多少入りましたね。
勿論こうあるべきとは言いませんでしたが、彼女たちの熱心さに応えたいと思ったのでしたね、石井さん、小林さん。
そして、明日の午前中に今日の実習を振り返って、患者をどう理解したか、看護目的を果たすには何が必要か、患者に聞いてみたい事等を学生達で話し合い、先生のアドバイスを得て午後の再度の実習に望むことになった。
2 月 8 日、昼食を頂きながら、どんな風にこれからの実習を進めたいかを説明して頂き、私達も初めての試みに多いに関心を持って、会議室に向かいました。今日は学生は自宅からリモート参加、まず、午前中に自分達で昨日の実習を振り返りながらディスカッションしたことを少し、3 人から話して貰った。
ついで、今度は組み合わせを変えて、15 分から 20 分の、ベッドサイド面接をリモートで行った。
先生がそろそろここまでにと云うほど、会話が続きましたね。勿論昨日とはだいぶ違う面接になった訳ですが、一番感じたことは、一言で云えば大人になったなという事でした。3 人とも、相手をよく見、よく聞き、
相手が何を望んでいるかを考えようとして、自分の計画だけを押し付けるような昨日の応対とは全然違ってきましたね。
きっと昨日、多分我々3 人がそれぞれの仕方で話したことを心に留めておいてくれたのだろうと思い、嬉しかったですね。
ことに小林さんは、満面の笑みを浮かべて、良かった良かったと連発していたし、石井さんも私も今日の面接がどう変わったかを示して声を掛けるほど、その進歩は素晴らしいものでした。
その後、先生から今回のシナリオからどんな患者のイメージを持って SP をされたのかと質問され、三者三様の役作りの話をして、お互いにも、へえそうなのと改めて SP を演じる面白さを感じました。
また、学生からの質問に、入院して楽しいことは？と聞かれ、多いに困りましたが、看護師さん次第で楽しくも嫌にもなるというのが結論だったでしょうか。
そして、どうして SP になったか、続けている動機は？という質問も有り、模範解答から若干はみ出すような個人的な話も出て、SP の背景を幾らか知って頂いたと思います。時間が有れば君たちが看護師になろうとした動機は何なの？と聞いて、改めて自覚と意欲を持って欲しかったし、そういう、単に実習に来た SP と学生、先生という立場を超えた空気感があったのも、非常な驚きで嬉しい体験でした。
小林さんが言ってくれた、こんな特別な時間を作ってくれた先生方に感謝して下さいねとの言葉に三人とも素直にうなずいていました。コロナという災禍が思わぬチャンスをくれた訳ですが、いつもの実習と違った看護の仕事と学生の個性に正面から向き合ったやり方を取り入れる事も考えられていいかなと思いましたが、そうは言っても時間や人材、そして予算も有って出来ないのが実情なのでしょうか。今回は私が下書きを書いてお二人に加筆訂正をお願いしましたが、石井さんの次の指摘は重要ですね、看護師はフィジカルアセスメントがベースにある訳ですので面接はリモートを活用できるが、実習機会の無いこちらのフォローが非常に心配だと。2 日間の思わぬ形での実習を終えて、多分こういう時間はもうないだろうなと、私達も大変感銘を受けた実習でした。

○2 月 14 日(月)相模原看護専門学校で学生 76 名と SP12 名で医療面接を行いました。午前中は女性 SP による胃ろうの患者役です。午後は男性 SP5 名と 2 名の女性 SP で、腰椎圧迫骨折のコルセット装着中の患者役です。

コルセットが短い　　学生どおしでの打ち合わせ。　　教官からの説明

バイタルサイン素早く測定、　　ベットからの移動　　トイレまで車いすで移動

車椅子での排泄。ベット上での洗髪。　測定者を見守る学生。　担当教官と SP との打ち合わせ。ベットから車いすへの移動

感想

相模原看護専門学校の看護実習に参加して

神永教子

午前中は胃ろうの患者役で、口から食事がとれなくなるのではと不安な患者を演じ、午後はコルセットを体に巻き付けて腰椎骨折の患者役を演じました。巻きつけたコルセットが短くて、先生お二人に手伝ってもらい巻き上げました。学生さんはとてもやさしくて、アイコンタクトも素晴しいし、声掛けも心から接してくださるので役にのめりこんでいた自分に驚きました。バイタルサインも手際よく終えているので本当に計っているのかと不安になりましたが測定値を教えてくれて、正常ですねと言われたのにはほっとしました。車いすでの移動の際には寒くないかと毛布とタオルケットで首に巻き付けて移動には、看護の基本を学んだ気がしました。

感想

相模原看護専門学校の看護実習に模擬の患者として参加した感想

神永　貞信

去る 2 月 14 日（月）相模原看護専門学校看護学 2 年生の学生と看護実習を行いました。午前中は、誤嚥性肺炎の患者役で、女性の模擬患者 7 名で行い、午後は腰椎圧迫骨折の患者役で、男性の模擬患者 5 名と女性 2 名の 7 名で行いました。小生は午後の患者役で参加しました。

この患者（86 歳）は、骨折後 26 日目の入院患者で、元大工で、60 歳の時に仕事をやめ、大腸がんの手術や間質性肺炎など重い病気にかかっていました。そのため病気のこともある程度勉強しており、また家を建てる話になると「自慢話に花を咲かせる」といった「明るさ」を持っている患者役を演じました。

その患者に学生がどう対応するかが今回のテーマの様でした。と言いますのは、学生は 5～6 名で 1 グループを組み、その内 1 名が患者に対応し残りの学生は観察にするという体制で、5～6 回実習をしたからです。

そこで感じた事を述べさせていただきます。

① 早く治るためには、こうしてください」といった指導的なことが何回かありました。その時は、その学生に「はい。」と答えますが「この患者は今言われたことを守ると思いますか」と聞き返しました。学生は、「あまり守られないだろうと思います」と答えておりました。

②木造住宅を建てる時の用材（柾目、板目等）の使い方の話をしたとき、学生は「うん、うん」と聞き耳をたてておもしろいはなしでしたが、自分の目的を達することが出来なかったとの、反省の言葉がありました。

③世間話が出来るようになった学生に、「いつ退院できるか、先生に聞いてくれ」と話したところ、それは自分で聞いてくださいといわれた。「俺は、先生に話が出来ない先生の言うことは、はい、はい、と言えるが、先生にこうして欲しいとかああして欲しいとは言えないから、聞いてきてほしかったんだ」

といい、何事も相談できる看護師さんだね。と信頼関係を作れたことがうれしかったと、その学生にいいました。

○2 月 24 日(木)佐野和三さんが県立栃木衛生福祉大学校の講義をズームで 90 分間行いました。対象の学生さんは検査科です。

ズームで佐野講師の講義に聞き入る学生たち。

2022 年 2 月 26 日

栃木県立衛生福祉大学校　　臨床検査学科　2022.2.24

講義『臨床検査技師と医療面接・OSCE・CBT』

実施日　2022 年（令和 4 年）2 月 24 日木曜日

佐野和三

ＣＯＶＩＤ－１９（新型コロナウイルス感染症）の変異株、オミクロン感染の収束がまだ先見えぬ中、理事長から一通のメールが 2 月 2 日に入りました。SP の代打かな？と思いきや上記内容の講義であった。看護師養成専門学校から SP の『リフレクション（振り返り）』で Zoom は経験あるものの、今回の『自宅からのオンライン』での講義は初体験で不安であった。本番までの 20 日間は勉強させていただきました。パンデミックのまん延予防措置中のため、学生は 1 年生と 2 年生数十名が教室で待機し視聴です。『佐野は講義より高座でしょう』の声が背面から聞こえてきました。その通りです。

医療面接について講義は出だしが堅いと学生が引いてしまうので、起承転結の起は『まくら』（落語などで本題の前に語る小噺）でスタートしました。苺の『とちおとめ』で掴み、宇都宮の餃子の話をしました。理事長からのパワーポイントを最大限利用させていただき、北京五輪のカーリング銀メダル受賞の『コミュニケーション』の大切さと、医療はチームワークとほうれん草（報告・連絡・相談）の重要性を話し、『臨床検査技師と医療面接』の話が佳境に入る場面では、喉がかすれお茶を一杯飲みました。SP として求められる患者像の大切さもたっぷり話しました。90 分予定が 5 分ほど延びましたが、理事長のご苦労、大変さが身に染みて感じました。

終講にあたり学部長先生からお礼の言葉をいただきました。掲載写真は担当の先生が「こんな雰囲気」でした

と、メール添付していただきました。後日談では学部長はじめ 6 名の教員先生が聴講しました、とメールがありました。何はともあれ「ほっと」しました。

佐野さんお疲れさまでした。神永教子

お知らせ

評価機構で 3 月 19 日に OSCE のための講習会を行います。**3 月 19 日(土)に日本医科大学にて暫定認定 OSCE 形式パフォーマンス評価を開催します。**

千駄木にある日本医科大学で、参加者数は 1 施設 5 名とのことですので当会としては、5 名参加することにしました。

学生さんも参加して、評価もするとのことですから、終了後報告いたします。

3 月は施設からの要請がありませんので、都庁と国税局に事業報告をいたします。

また、監査・理事会・総会と 4 月までに終わらせなければなりません。

○おかげさまでホームページが走り出しましたのでご覧ください。お知らせ版はホームページをご覧ください。

アドレスは

URL:http://kaminaga.moo.jp

響き合いネットワーク東京 SP の会ホームページ

どちらでも開けます。

お知らせ版 127 号は 3 月に掲載します。行動表も掲載しています。

宜しくお願いします。

バイタルサインを測定する学生さん

お腹や背中から心音を聴く学生